

## ◆ヒブ（インフルエンザ菌b型）ワクチン（不活化ワクチン）

### ◇ヒブとは

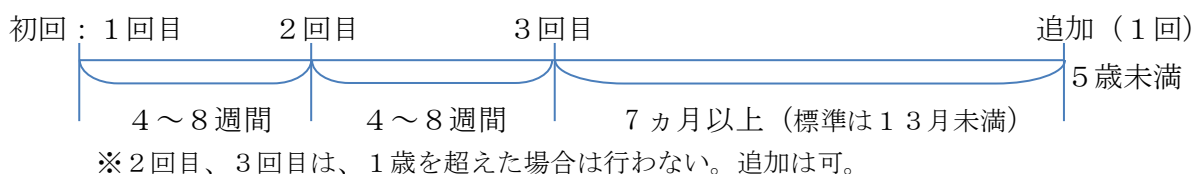
乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、原因の半分以上を占めているのがインフルエンザb菌という細菌で、略してヒブ（Hib）と呼ばれています。ヒブは、インフルエンザ菌b型という細菌の名前ですが、冬に流行するインフルエンザ（流行性感冒）の原因であるインフルエンザウイルスとは全く別のものです。また、他の多くの細菌やウイルスと異なり、ヒブは乳幼児に感染しても抗体（免疫）ができず、繰り返し感染することがあります。この菌は人から人へ飛沫感染（だ液などの飛沫）し、肺炎や敗血症などの重い疾患を引き起こします。なかでも髄膜炎は後遺症が残ったり、命に関わる場合があります。

多くの場合は、生後3ヶ月から5歳までの子ども達がかかります。特に2歳未満の子どもに最も多いので注意が必要です。

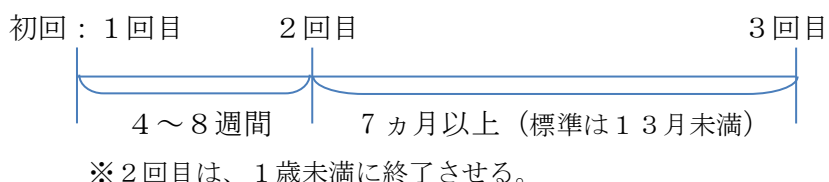
[ワクチンの種類・接種量・方法] 乾燥ヘモフィルス型bワクチン 1回0.5mlを皮下注射

### ◇ヒブワクチン接種スケジュール

①標準的接種パターン：接種開始年齢が生後2ヶ月齢～7ヶ月齢未満の場合  
(初回免疫3回と追加免疫1回。合計4回)



②接種開始年齢が生後7ヶ月齢～12ヶ月齢の場合（初回免疫2回と追加免疫1回。合計3回）



③接種開始年齢が1～5歳未満の場合（1回で終了）

### ◇ワクチンの効果と副反応

<効果>ヒブワクチンは、4回の接種を受けた人のほぼ100%に抗体【免疫】ができ、ヒブ感染症に対する高い予防効果が認められています。

<副反応>最も多くみられるのは、接種部位の発赤（あかみ）や腫脹（はれ）です。発熱が接種した数%に起こります。重い副反応として、非常にまれですが、海外で次のような副反応が報告されています。

(1) ショック・アナフィラキシー様症状（じんましん・呼吸困難など） (2) けいれん（熱性けいれん含む） (3) 血小板減少性紫斑病。